

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第33回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「スキー」

日本におけるスキー史の始まりは、諸説あるものの明治四十四年に新潟県高田（現在の上越市）で陸軍がオーストリアのスキー術の指導



大正12年 スキーを用いた林内移動の様子
(現在の中信森林管理署管内)

を受けてからとされます。この後、急速にスキー術は各地に広まるのですが、国有林においても早くから注目され、大正五年には東京大林区署（後に長野営林局となる組織の一つ）より「森林保護上のスキーの効用」という資料が出されています。雪の森林地域の移動に有用であるという点が重要だったのでしよう。初期のストックは一本杖で、スキー板もケヤキ材の重たいものがあつたようです。

昭和十二年 林業訓練の若者達のスキー風景
(現在の飛騨森林管理署管内)



その後、雪の多い地域の国有林の職員にとって、スキーは冬の森林内での移動や調査などの業務をこなすための身近な道具となってきました。職場内でのスキー講習会・スキー

大会もしばし開催されましたが、当時のスキー大会の種目には森林の巡視や樹木の測定も含まれた競技があつたようです。
昭和初期から十年代になると一般社会にもスキーはスポーツ・レジャーとして広がっていきませんが、国内のスキー場にリフトが設置されるのは戦後のことです。かつてのスキーは自分で担ぐなどして山に登った後に滑るものでした。

昭和三十年頃
樹木の直径を測定しながら行われたスキー競技
(現在の飛騨森林管理署管内)



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

